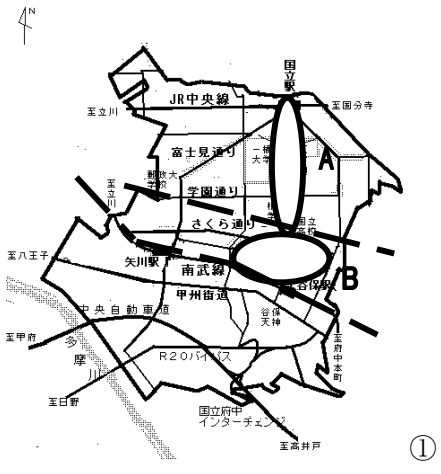


5-2-4 市内行動圏の大きさと友人ネットワーク、まちづくり参加

市内での「まちづくり」参加経験に有力なネットワーク要因として、インフォーマルな市内友人数が、とくに北部地域において関係することを 5-2-3 で示したが、この市内友人数と連動して、個人の日常行動圏が市内の「まちづくり」参加に影響を与えたかどうかを検証した。

日常行動圏を測定する尺度としては、調査票の問 16 を用いた。設問では国立市全図を使い、実際に回答者に「日常的によく行き、土地柄をおおむね知っている場所」について丸で囲んでもらった。これを指標化するために以下の作業を行った。

- I. 回答者が記入した丸（またはこれに近い印）の範囲が入っているエリアを確認し、記入のないものは無回答とした。
- II. 丸の大きさをそれぞれのエリアごとに評価した。その際に、円がおおむね半径 500m 以上のものを 2（広い）、それ以下のものを 1（狭い）とした。
- III. 地図で示された通り名（例えば、「大学通り」など）に沿って細長く描かれているものについては 1 としたが、2 本以上の通りを示してある場合は 2 とした。
- IV. 円の範囲が複数のエリアにまたがっている場合は、それぞれのエリアごとに 1~3 の手続きを行い、それぞれのエリアでの評価値 (0,1,2) の和を「市内日常行動圏」とした。

<p><具体例></p> <p>①のような場合は、A と B にまたがっているため、それぞれのエリアごとに行動圏の広さを評価した。この場合は $A=1$、$B=2$、$C=0$ となり、市全体の行動圏のレベルは $1+2+0=3$ となる。</p>	
--	--

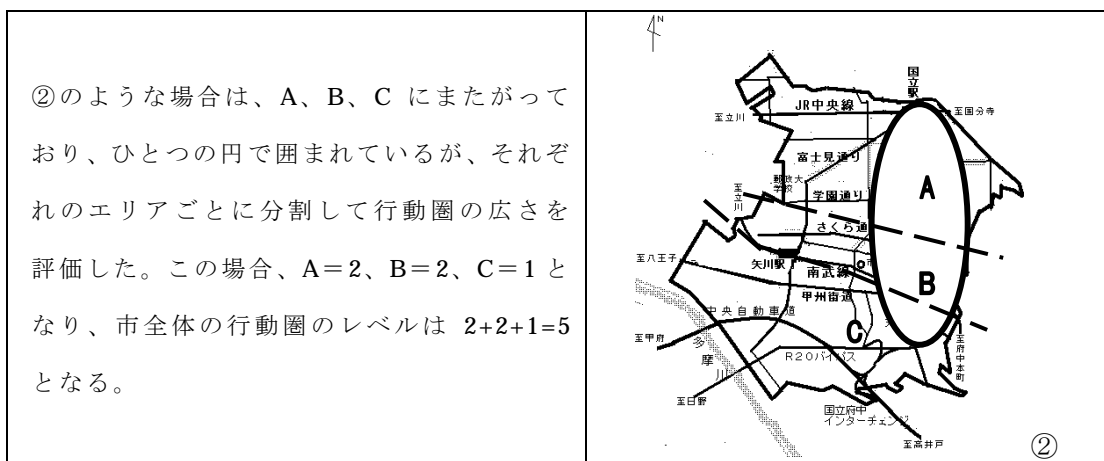


図 5-7 (前ページ下①) , 図 5-8 (上図②) . 市内日常行動圏の広さの採点評価説明図

以上より、市内行動圏の広さをレベル 1 (非常に狭い)、レベル 2 (やや狭い)、レベル 3 (2つ以上のエリアにまたがるが狭い)、レベル 4 (2つ以上のエリアにまたがりやや広い)、レベル 5 (3つ以上のエリアに広がり広い)、レベル 6 (市内全域にわたり広い) と評価し、無記入のものを 99 (DK,NA) とした。